

引用動向から見たコア・ジャーナル

棚橋佳子

アジア地域研究を中心とする学術雑誌について、論文の引用動向から見たコア・ジャーナルを考察する。トムソン・ロイター社 (<http://ip-science.thomsonreuters.jp/>) の学術文献データベース Web of Science[®] は世界の二〇〇〇誌以上の論文誌の引用文献を索引化している。このうち、アジア地域研究に関する論文誌は社会科学分野として収録される。その後、雑誌の論文引用・被引用情報は雑誌単位に統計分析して指標が算出編纂され、Journal Citation Reports[®] (以下JCR) として毎年六月頃に更新されている。Web of Science[®] JCRに収録される雑誌は国際誌としての厳しい選択基準をクリアし、インパクトファクターが付与されるため、論文誌としてはその領域のリサーチコミュニティにおいて認知度の高

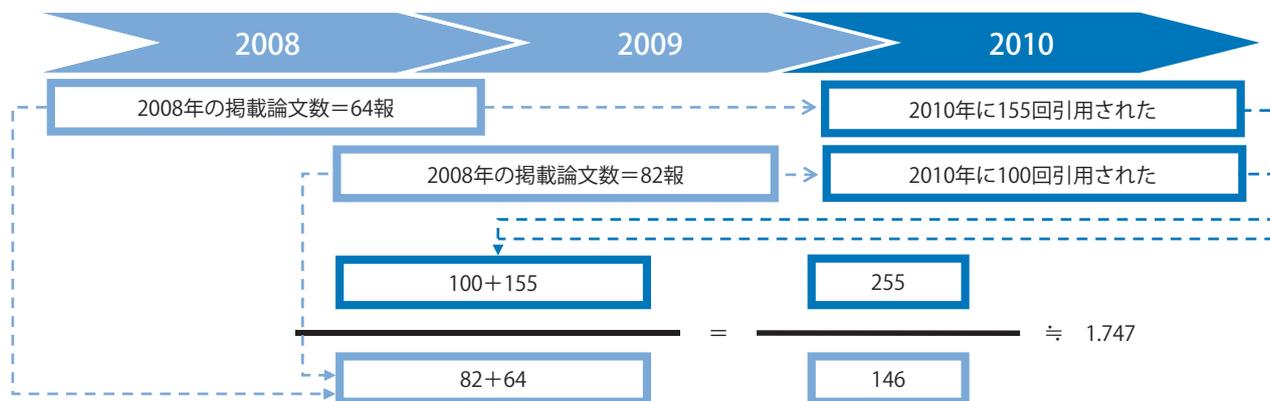
いものとみなされる。インパクトファクターはいわゆる雑誌の平均被引用率で、図1の定義で算出される。二〇一〇年のインパクトファクターは、前二年間に出版された論文に着目し、その二年分の論文が二〇一〇年に出版された雑誌に何回引用されたかを求めて、元になっている論文数で割ることにより、一論文当たりの平均被引用数を求めている。五年インパクトファクターは対象を五年分に拡張して算出している。

●計画・開発学分野の雑誌

アジア経済研究所発行の学術誌「Developing Economics」はJCRにおいてPlanning & DevelopmentとEconomicsに分類されている。論文引用は研究者コミュニティの大きさや学術誌自体の出版頻度によっても様々であり、自然科学分

野と社会科学分野では引用そのものの重みづけ基準が異なる。そこで最近では社会科学分野のWeb of Scienceのジャーナル収録には「国際ジャーナル」と「地域ジャーナル」の両極を考慮した選定がなされるようになった。この都市計画分野・発展途上国開発分野(以下、計画・開発学分野)には四七誌があり、季刊誌が二七誌、隔月刊誌が一〇誌、月刊誌六誌と、季刊誌が多いことが特徴である。総被引用数の多い雑誌は、年間一〇〇論文以上掲載する論文誌が並ぶ。インパクトファクターは〇・六から一・四の間に半数以上の二六誌が集中しており、インパクトファクターが高い二〇誌を表1に示した。計画・開発学分野の特徴は、五年インパクトファクターが前二年をベースに

図1：インパクトファクターの算出方法



【例】 JOURNAL OF ECONOMIC DEVELOPMENT
2010年のインパクト・ファクター

計算した通常のインパクトファクターよりも如実に高い。自然科学分野の場合は出版されてから二年目三年目に引用のピークがくる雑誌が多いが、社会科学系の雑誌は引用対象が広く、遡及年度も深いため、引用のピークあるいは集中度は自然科学にくらべて顕著ではない。

●引用の相関関係

次に「Developing Economies」が引用する雑誌に着目したい。最も良く引用する対象雑誌の上位二

誌を抽出して図式化すると図2の相関図となる。それぞれの関係は、矢印の先の雑誌を引用しており、Developing EconomiesはAmerican Economic ReviewとJournal of Development Economicsを引用している。American Economic Review誌は四誌すべてから引用されていることからこの分野のコア・ジャーナルである。年五回の発行頻度でインパクトファクターは三・一五である。レビュー論文誌は概して被引用が多く、インパクトファクター値は高い。

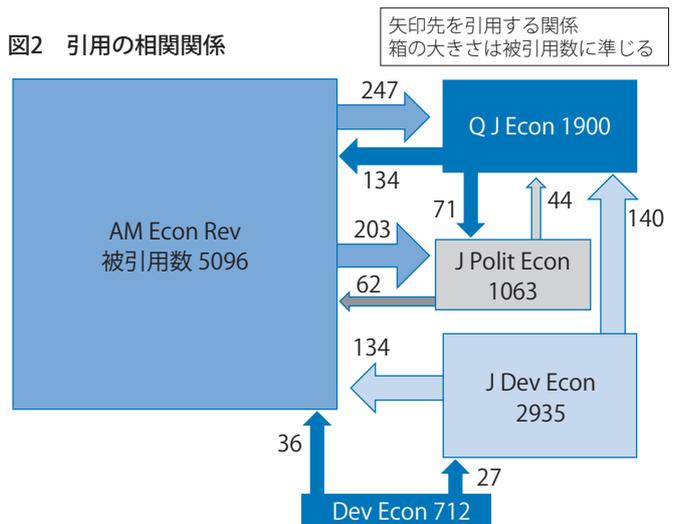
●地域性の高い雑誌
JCRのArea Studies分野は、地域研究としてアフリカ、アジア、中東、環太平洋地域などの社会的、経済的、政治的な観点からの研究を対象とする六〇誌を収録している。このうち表3にインパクトファクターの高い一〇誌を挙げた。グローバルな学際分野に比べれば、領域全体の研究者数も少ない分野であるため、他の分野と比べるとインパクトファクター値は低い。この

表1 Planning & Development分野
インパクト・ファクター上位10誌

	ジャーナル名	総被引用数	インパクト・ファクター	5年インパクト・ファクター	論文数
1	J RURAL STUD	1598	2.533	3.351	43
2	RES POLICY	7539	2.508	4.242	112
3	TECHNOL FORECAST SOC	1791	2.034	2.212	124
4	J AGRAR CHANGE	310	1.881		24
5	LONG RANGE PLANN	1451	1.727	2.126	35
6	HOUS POLICY DEBATE	814	1.708	1.942	25
7	J PEASANT STUD	398	1.612	1.108	33
7	WORLD DEV	5687	1.612	2.526	140
9	J AM PLANN ASSOC	1363	1.559	2.796	27
10	POLICY SCI	617	1.514	1.357	17

(出所) トムソン・ロイター Journal Citation Reports 2010.

図2 引用の相関関係



(出所) 表1と同じ。

表2 Developing Economiesに引用されている雑誌

Impact Factor	Cited Journals	Cited Year											
		被引用総数	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2004	2003	2002	2001	2000以前
	All Journals	712	20	30	49	58	56	45	46	37	49	38	284
1.747	J DEV ECON	36	2	3	2	3	3	4	0	0	1	1	17
3.15	AM ECON REV	27	0	0	2	1	2	3	1	4	0	2	12
5.94	Q J ECON	20	0	0	0	1	1	1	1	0	4	0	12
0.156	DEV ECON	17	14	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
0.793	J DEV STUD	15	1	0	5	0	2	0	0	0	0	3	4
2.271	ECON J	12	0	0	0	4	1	2	0	1	0	0	4
1.318	WORLD BANK ECON REV	11	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	5
1.612	WORLD DEV	11	0	1	1	0	2	1	1	1	0	0	4
4.065	J POLIT ECON	11	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	9

(出所) 表1と同じ。

表3 Area Studies分野
インパクト・ファクター上位10誌

ジャーナル名	総被引用数	インパクト・ファクター	5年インパクトファクター	論文数
AFR AFFAIRS	588	1.49	1.763	30
AFRICA	631	0.824	0.924	26
CHINA J	190	0.826	1.096	16
CHINA QUART	878	0.907	1.396	37
CRIT ASIAN STUD	158	0.733	0.632	27
ECON DEV CULT CHANGE	1169	1.392	1.536	26
EURASIAN GEOGR ECON	339	1.472	1.199	39
J CONTEMP ASIA	182	0.764	0.77	28
J MOD AFR STUD	487	1.082	1.156	24
N KOREAN REV	30	0.75		15

(出所) 表1と同じ。

六〇誌の雑誌選定には、地域研究を代表するジャーナルではあるが、インパクトファクター値のかなり低いものも包含されている。これは二〇〇七年以来地域性を重視した雑誌についてはWeb of Scienceの収録見直しを行い引用の帕フォーマンスを広く捉えて選択しているためである。

インパクトファクター値だけでなく、学術誌を評価するべきではなく、

雑誌の評価にはピア・レビューも欠かせない。ここに挙げた地域研究や開発学分野の雑誌は論文が出てから引用されるまでの一定期間に引用が集中することが約束される論文はむしろ少ない。したがって、インパクトファクターのように二一年間に着目して算出する被引用率により雑誌を比較することは十分ではない。Goldstein [2010]は、(参考文献①)でアメリカの大学の都市計画学部に所属する教授に学術誌をどう評価しているかアンケート調査分析し、インパクトファクター順にランキングした結果との相関関係は認められなかったとしている。

●インパクトファクター活用

それではインパクトファクターはどのように利用すると良いのか。研究者にとって馴染みのある自分の研究分野の雑誌はよくわかっていて、しかし、学際的な研究主題によっては馴染みのない分野を扱うことになる。そうした特定の分野を知りたいとき、どのような学術誌を押さえるべきか。インパクトファクターが高い雑誌を知ることが、その分野の研究者が良く利用する活発な雑誌がわか

る。特に自然科学の分野を概観する場合に活用できる指標である。

インパクトファクターの高い、影響力のある雑誌に論文投稿ができること、それを科学技術のアウトプット力があるとみなして、科学技術力を見る場合に利用されることもある。アジア各国から発信される学術誌について、各国ごとにインパクトファクターの高い雑誌を分析すると、その国が得意とする学術分野、世界へ向けて力をいれている科学技術力が見えてくる。

最後に、アジアの各国に焦点をあて、学術誌のさまざまな指標をもとに文献分析をしているレポートを紹介したい。トムソン・ロイターのグローバル・リサーチ・レポート・シリーズ (<http://ip-science.thomsonreuters.jp/raigr/>)ではインドや中国、BRICSなど、自然科学分野で学術誌を中心にどのような学術コミュニケーションがあるか、グローバル市場へ向けての研究力の現況分析がわかるレポートである。ただこうしたレポートも専門的な見地から地域研究に活かしていただくことが望ましい。雑誌・論文の統計

を定量的分析する手法も取り入れて、今後のアジア地域研究に役立てていただけることを期待したい。

(たなはし よしこ/トムソン・ロイター 学術情報ソリューション シニア・ディレクター)

《参考文献》

①Goldstein, H. [2010] The Use and Valuation of Journals in Planning Scholarship: Peer Assessment versus Impact Factors. *Journal of Planning Education and Research*, 30 (1), pp.66-75.